

2026年1月

佐伯通信

【熱海だより】



「オール讀物」の“年男”撮影 ©文藝春秋

八十四歳の初挑戦

佐伯通信

2026年1月(令和8)
第71号
発行 佐伯泰英事務所
担当/文藝春秋
禁・無断転載

新年明けましておめでとうございます。
わたしが現代ものから時代小説に転じた、いや、転じざるを得なくなったのが前世紀末。理由は明白、売れない故だ。
時代小説転向の一作目は『見参！ 寒月霞斬り』。たれにも期待されていなかった。

た新作が、なぜかそこで売れた。「密命」とシリーズ名をつけて、二十六巻まで続くこととなる。以来、二十六年余、三百余冊の長編小説を刊行し、累計部数は電子書籍と合わせて八千万部を突破しそつだとか。新年早々にお届けする、この『めじろ鳴く』は、二十六年の間に書いてきたいくつもの短編に手を入れ、新作「妻手指」を加えた、初の短編集だ。
短編集に挑むことになったのは、編集者諸氏や身近である伴走者の娘に、「八十四歳、年男の馬奔

2026年1月

佐伯通信

【近刊予告】

佐伯泰英／近刊のお知らせ

6月中旬	13	交易
5月中旬	12	謁見
4月14日	11	海戦
3月11日	10	難航
2月10日	9	御暇
2月10日	8	交代寄合伊那衆異聞
2月4日	7	密命
3月4日	6	極意 御庭番斬殺
4月7日	5	遺恨 影ノ剣
5月8日	4	残夢 熊野秘法剣
6月10日	3	乱雲 傀儡剣合わせ鏡
	2	追善 死の舞

最新情報
佐伯泰英 HP
リニューアル！
https://www.saeki-bunko.jp

※発売日は予定です

累計
750万部
突破

佐伯泰英 時代小説転向第一作
伝説的人気シリーズが
文春文庫で復活！

決定版

密命

毎月
1冊ずつ、
刊行中
全26巻

出版社からのお知らせ
文春文庫

2026年1月

佐伯通信

【PR】

文春文庫部長 石井一成

あけましておめでとうございます。
年の初めを言祝ぐ初荷として、佐伯先生初の短編集『めじろ鳴く』をお届けいたします。
老剣豪、紅職人、決意を秘めた浪人、水遊びに興じる少年たち、そして父の仇討に旅立つ若き剣士……。本書収録の各編に登場する主人公は、老若男女それぞれ異なる人生を歩みつつ、いずれも胸の奥にあふれんばかりの熱情をたたえています。新しい年の幕開けにふさわしい、みずみずしさと力に満ちた一冊です。
かくいう私（香川県出身）の新年は、「年越しそば」ならぬ「年明けうどん」から始まります。
みなさまにとって幸多い一年でありますように。

待望の書下ろし長編、ついに刊行！

いちもんじすけざね

『一文字助真』

叔父を殺害された猪俣小次郎が修行の旅の道中で出会った少女・薫子名剣とともに二人は江戸で新たな道を切り開いていく――

▼文春

佐伯作品は、
文庫版（紙の本）と電子書籍で
刊行中！
各シリーズ紹介は出版社の
サイトをご覧ください。

▼光文社

2026年の「佐伯通信」は、佐伯泰英事務所が㈱光文社、㈱文藝春秋の協力のもと発行します。

2026年1月

佐伯通信

【熱海だより】

れ、未だ休むに非ず」とムチをいれられた結果である。小生、文章の創作法をだれかに教わったこともなく、ひたすら独学で走ってきた。
半世紀以上も前の話だ。平凡社からスペインの闘牛の写真集を出すことになった。編集者の「文学と融合させた一冊に」というアイデアで、作家の小川国夫氏に写真にあわせた文章の執筆を願うことになり、藤枝のお宅をお訪ねした。小川氏がどのような小説を書かれた作家か、全く知らなかった。
半世紀以上も前の話だ。平凡社からスペインの闘牛の写真集を出すことになった。編集者の「文学と融合させた一冊に」というアイデアで、作家の小川国夫氏に写真にあわせた文章の執筆を願うことになり、藤枝のお宅をお訪ねした。小川氏がどのような小説を書かれた作家か、全く知らなかった。
この本『角よ故国へ沈め』の最後のページに「闘牛と私」という短文を書かせてもらった。それが活字になった初めての文章だ。
短い文章というのは、存外に恐ろしい。とある編集者に「佐伯さん、短編というの、うまいひとが書くものですよ」と言われたことがずっと頭に残っている。そんな私がなんと齢八十四を目前に初の短編集『めじろ鳴く』を刊行するとは驚き以外にない。さらに、光文社文庫からは新たな長編も発売される。短い「あとがき」を書くのが精いっぱいだったあの当時、だれが想像しただろうか。
あっ、それから、HPをリニューアルしました。今後ともよろしくお付き合いのほどを。